戦国蒲郡の貴重な城跡、見つけた!

蒲形城跡は、別名下ノ郷城跡、西郡城跡とも呼ばれた、市内で唯一、平地に造られた城跡です。場所は本町、今の蒲郡高校の南西にありました。蒲形城跡は15世紀始め頃に築かれました。最初の城主は、上ノ郷城跡の城主だった鵜殿長善の次子、長存です。この長存から始まる「下ノ郷鵜殿家」は、四代長信が16世紀末に徳川家康とともに関東に移るまで、約200年近くこの地を治めていました。

蒲形城跡を描いた図として、広島藩の浅野家に伝わる「諸国古城之図」、江戸時代竹谷松平氏の家臣だった本多家に伝わる「松平屋敷図」が残っています。いずれも、本丸と呼ばれる城の中心部を、二重に堀と土塁が囲う様子が描かれています。平らな城だったので、防御効果を高めていたのでしょう。この堀については、一部が昭和30年代まで残っていたので、記憶のある方もいるのではないでしょうか。なお、「諸国古城之図」は、博物館2階の歴史展示室でパネル展示しております。ぜひ確認してみてください。

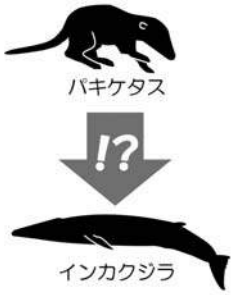
2月末に蒲郡高校の南西付近で、確認調査を実施しました。6平方メートル、わずか3日の調査でしたが、柱の穴と思われるピット3基と南北方向の溝、そして、戦国時代のナベやカマの小破片が出土しました。城跡が今も地中深くに残っている事が分かる、貴重な調査結果を得る事ができました。

発掘調査で見つかった溝と柱の穴

クジラのかたちの秘密

生命の海科学館では、展示中の化石クジラが昨年秋に新種認定されたことを受け、「新種認定!インカクジラ展」を開催中です。750万年前に生きていたインカクジラですが、全体的には現在のクジラと非常によく似た形をしています。

では、もっと昔のクジラは、どんな形をしていたのでしょう。実はクジラは、もともとは陸上に住んでいた哺乳類です。約5千万年前の「パキケタス」という四足で歩く生き物が、最古のクジラといわれています。見た目はイヌのようですが、れっきとしたクジラです。やがて四足の体は、だんだんと水中での生活に適応していきました。泳ぎやすいように、体全体がデコボコの少ない滑らかな形に変わっていきました。前足はヒレとなり、後ろ足はなくなりました。



実は、当館で人気のプレシオサウルスやイクチオサウルスも、陸から海に還っていった生き物たちです。陸上で生活していた爬虫類(はちゅうるい)がだんだん海での生活に適応し、手足がヒレとなり、体が滑らかな形に変わり…プレシオサウルスやイクチオサウルスになりました。

哺乳類と爬虫類は、近い仲間というわけではありません。でも、インカクジラとプレシオサウルスやイクチオサウルスは、よく似た進化の道筋をたどったようにみえます。まったく別々の生き物なのに、同じような場所で生活したことで、似たような体の形になっていく…このような現象は、「収斂(しゅうれん)」と呼ばれています。

1階にクジラコーナーも新設され、館内は今、クジラでいっぱいです。皆さんもインカクジラの化石や新しいクジラ展示を眺めて、進化の歴史に思いをはせてみてはいかがでしょうか。